

ノ國家トシテノ生存ノ如何ニ于スルニアラザル以上ハ仲裁裁判ニ依  
リテ之ヲ決シテ可ナリ。國家ノ成立ニ于スル問題ナルモノハ所謂  
立ノ結義ノ広狭如何ニ於テ其範圍ノ広狭ヲ致ス。獨立ノ諸ハ或ハ國家  
ノ行爲ノ自由ヲ指スコトアリ(獨立權)或ハ國家ノ他國ヨリ商レテ特立  
生存ヲ爲スコトヲ指スコトアリ(獨立ノ承認)或ハ國際法上ノ能力ノ毀  
損ナキ狀態ヲ指スコトアリ(獨立國)若シ獨立ノ結義ヲ特立生存ヲ指ス  
トセハ所謂獨立ハ即チ國家ノ生存ト同意義トナル又広キ意義ニ用ヒ  
テ行爲ノ自由ト爲ストキハ國家ノ行爲ニシテ獨立ニ関セザルモノヲ  
想像シ難キニ至リ。仲裁裁判ヨリ除外セラルヘキ問題ノ範圍ヲ明白ニ  
スルコト能ハカルニ至ル又獨立ヲ以テ國際法上ノ能力ノ毀損ナキ狀  
態ト爲サハ獨立ニ于スル問題ハ國家ノ能力ノ不完ニ于スル問題ト  
ナレハシ。今日ニ於テハ國家ノ生存其モノニ關スル問題ハ仲裁裁判ニ  
付スルニ適セザルヲ認メサルヲ得スト。其以外ノ問題ハ若シ之ニ  
關シテ既ニ國際法ノ規則ノ存スルトキハ之ヲ仲裁裁判ニ付シ得ヘキ  
モノト爲ササルヘカラス。或ハ仲裁裁判ニ於テ法律的問題ノ決定ノミ

ナラズ或事項ニ關スル公平上又ハ便宜上ノ決定ヲ爲スコトアリ。然  
レトモ最モ仲裁裁判ニ適スルハ法律的問題ノ決定ニアルヲ論ナキナ  
リ。一事件カ法律上ノ問題ナリヤ否ヤヲ決定スルコト困難ナルコト  
アリセカ。為メニ仲裁裁判條約ニ於テ法律上ノ問題ヲ仲裁裁判ニ付ス  
ルニ約スルニ拘ラズ法律上ノ問題ト認ムヘキモノニシテ當事國ノ一  
方ニ依リ法律上ノ問題ニマラストノ理由ニ依リ仲裁裁判ニ付スヘカ  
ラスト主張セラルルコトマリ得ヘキナ。是ニ於テ或仲裁裁判條約(例  
ハ一九一一年八月二日ノ會免國及英國間並ニ合衆國及佛國間ノ仲裁  
裁判條約)ハ一ノ爭議カ仲裁裁判ニ付スヘキモノナリヤ否ヤニ關シテ  
疑起ルトキハ共同審査委員會ニ付シテ之ヲ決定スルコトトス(此條約  
ハ批准ヲ得ス)。  
第七 義務的仲裁裁判  
義務的仲裁裁判ノ制度即チ一般又ハ特種ノ國家紛争ヲ義務トシテ仲  
裁裁判ニ付スルノ制度ニ關シテ第一及第二ノ平和會議ニ於テ議論盛  
ニシテ一定ノ事項ヲ指定シテ之ヲ以テ義務的仲裁裁判ニ付セシム



ルノ条約ヲ結ハシメントスル案成ラントセリ(マンチン)ノ案ニ依リ  
 ハ名譽又ハ生存利害ニ干セサル法律問題ニシテ義務的ニ仲裁裁判ニ  
 付スヘキモノトシテ(一)不法ノ損害ニ基ク金銀上ノ要求及(二)政治上ノ  
 性質ヲ有セサル或國際條約行ニ万国聯合ノ名ヲ有スル諸條約(貨幣國  
 際河流協約運河等ニ干スルモノ)ノ解決適用等ヲ舉示シタリ)然レニ全  
 議ニ於テ主トシテ他選ノ及対ニ依リ此核ノ案ハ成立セ入單ニ義務的  
 仲裁裁判<sup>判</sup>ヲ普及セシメントスルノ趣意ヲ表ハス現定ヲ置ケリ曰ク(仲  
 裁裁判ニ依頼スヘキ義務ヲ記名國ニ對シテ現ニ規定シタル總括的ノ  
 ハ特別的條約ノ有無ニ拘ラズ締約國ハ仲裁裁判ニ付スルコトヲ得ハ  
 シト認ムル一切ノ場合ニ義務的仲裁裁判ヲ普及セシムルカ為メ(本條  
 約批准前又ハ其後ニ於テ總括的若ハ特別的新協定ヲ締結スヘキコト  
 ヲ留保ス)ト(四)而シテ第三回平和會議最終決議書ニ於テ會議力會  
 一致ヲ以テ義務的仲裁裁判ノ原則ヲ認メ且其一定ノ紛争殊ニ國際務  
 定ノ解決適用ニ付スル紛争力制限ヲ付セスシテ義務的仲裁裁判ニ付  
 スルニ適スルト認ムルコトヲ宣言セリ今日ニ於テハ國際團體以テ多

数ノ國家ノ加ハレル一般の條約ニ於テ義務的仲裁裁判ヲ認メタル  
 ハ契約上ノ負債回收ノ為ニスル兵力使用ノ制限ニ付スル條約ノミナ  
 リトス但第一平和會議ノ前後ヨリ屢々結ハレルニ至レル或ニ國間ノ  
 總括的仲裁裁判條約ハ一定ノ範圍内(法律問題殊ニ條約解決ノ問題ニ  
 シテ國家榮譽生存独立又ハ重大利益又ハ第三國ノ利益ニ干係セサル  
 モノニ限ル)ヲ普通トス)ニ於テ締約國間ニ義務的仲裁裁判ヲ認ムルモ  
 ノトス

仲裁裁判條約ハ既ニ生シタル又ハ將來生スルコトアルヘキ紛争ノ為  
 ニセテ締結シ(三九)第一項)仲裁裁判條約ハ總テノ紛争又ハ特種ノ紛争ノ  
 ミニ付スルコトヲ得(三九)第二項)總括的仲裁裁判條約ハ原則トシテ條約  
 國間ノ一般又ハ特種ノ國際ノ紛争ヲ仲裁裁判ニ付スルノ趣意ヲ有ス  
 ル條約ナリ、總括的仲裁裁判條約ニ於テハ全然留保ヲ為ササルモノ  
 モアリ得ヘキモ多クノ場合ニハ法律的ノ紛争殊ニ締約國間ニ存スル  
 條約ノ解決ニ關スル紛争ヲ仲裁裁判ニ付スヘキヲ定メテ國家ノ生存  
 独立名譽若ハ重大利益ニ關スル問題ハ第三國ノ利害ニ關スル問題



ヲ除外ス然レトモ條約ニ依リ格々ノ差異アリ一ノ條約ノ中ノ一條款ヲ以テ該條約ニテスル紛議ヲ仲裁裁判ニ付スルコトヲ約スルコトアリ是レ所謂仲裁約款ナリ

第八 總括的仲裁裁判條約

近時ニ於テ仲裁裁判ニ依リ國際紛議ノ解決セラレルモノ多キヲ如ヘタリ、而シテ諸國間ニ總括的仲裁裁判條約結ハルルコト亦多キヲ如ヘタルヲ見ル是等ノ總括的仲裁裁判條約ハ締結國間ニ於テ一定ノ範圍内ノ義務的仲裁裁判ヲ認メタルモノナリ、

一八七二年二月十七日中央 亞米利加ノ四共和國ノ間ニ總括的仲裁裁判條約結ハレ一八八九年更新ノ際ニカラグアセニ加ハリ締結國間總テノ紛議ヲ仲裁裁判ニ付スヘキヲ定ム一八八九年十月ニ開會セルワシントンノ全米會議ニ於テ列及合衆國ヲ除ケル南中北米諸國ノ委員ノ間ニ仲裁裁判ヲ以テ亞米利加諸國間ノ紛議ノ解決ニ別スル亞米利國際法ノ原則ト爲シテ保國ノ一方ノ独立ヲ害スルト認ムル場合ニアラサレハ半議ハ總テ仲裁裁判ニ付セサルヘカラスト爲スノ決議

ヲ爲ス此趣意ノ條約カ許多ノ國ノ間ニ調印サレシモ批准ヲ得ス一八九六年七月二十三日伊國及アルヘンケナ間ノ條約モ直接リ外交手段ニ依リ平和的ニ解決スルヲ得サレ現在及將來ノ紛議ヲ仲裁裁判ニ付スルコトトシ一ノ留保ヲモ爲サス(此條約ハ批准ヲ得ス一八九〇年一月二十九日第二全米會議ノ際アルヘンケナ太リグヤドミニカノ共和國グアテマラ、サンサルヴァドル、ノキニコハラ、グアイベル、及ウルグアイ、間ニ秋政國民ノ榮譽トニテセサル締結國間ノ總テノ將來ノ紛議ヲ海牙ノ常設仲裁裁判所ノ判定ニ付スヘキヲ約セリ一九〇二年七月十日ナリ及アルヘンケナ間ノ條約ハ一方ノ憲法ノ主義ニ據レ又ハ其間ニ結ヘル條約ノ施行ノ爲メ採用カレタル方式ヲ規程スルコトニ干係スル場合ニアラサレハ將來ノ紛議ヲ仲裁裁判ニ付スヘキヲ約シベラ、グアイ及アルヘンケナノ間ニ一八九九年七月六日及一九〇二年一月二十五日全條約結ハル、歐洲ニ於テ一八九〇年十月十四日英佛間ニ所謂永久的仲裁裁判條約結ハレ國家ノ獨立名譽又ハ重大利害ニ關セスハ第三國ノ利害ニ干係セサル法律的紛議ニシ



テ外交手段ニ依リ決シ得サルモノヲ仲裁裁判ニ付スヘキヲ定ム其以  
後歐洲諸國間ニ於テ締結的仲裁裁判条約ノ結ハルモノ多シ佛伊(一九  
〇三年十二月二十五日)佛西(一九〇四年十一月一日)佛瑞西(一九〇四年  
十二月十四日)等ノ諸國ノ間ニ英佛國ノ条約ト合様ナル条約結ハレタ  
リ英國ハ英伊英西英独英瑞那英葡英瑞(西)英澳英和英丁英コロンビ  
ヤ英アラビル英米(一九〇四年十二月十二日)間ノ諸条約結造ハ独英独  
米間ノ諸条約、露國露白露丁間ノ諸条約、奥國ハ奥英奥米奥瑞西間ノ諸  
条約西班牙ハ西英西白西葡間ノ諸条約、葡萄牙ハ葡西葡英葡米間ノ諸  
条約、白耳義ハ白露白瑞白瑞那白西間ノ条約、瑞西ハ瑞米瑞英瑞伊瑞奥  
瑞瑞那間ノ諸条約、德蘭ハ和丁和佛和伊間ノ諸条約、瑞奥那或ハ瑞那或  
而シテ總テノ爭議ヲ仲裁裁判ニ付スルヲ是ノ重大利害榮譽及独立等  
ヲ除外セサル仲裁裁判条約ノ例ハナリ及アルヘンナナ(一九〇二年)  
和蘭及丁林(一九〇三年)丁林及伊國(一九〇五年)丁林及葡萄牙(一九〇七  
年)アルヘンナナ及伊太利(一九〇七年)コスタリカ、グアテマラ、ホンデュ  
ス、ニカラグア及サンサルヴァトル(一九〇七年)伊太利及和蘭(一九〇七  
年)等ノ間ノ条約ナリトス

ラ、ニカラグア及サンサルヴァトル(一九〇七年)伊太利及和蘭(一九〇七  
年)等ノ間ノ条約ナリトス  
一九一〇年八月三日ノ合衆國及英國間ニ合衆國及佛國間ノ仲裁裁  
判条約ハ或爭議カ条約上仲裁裁判ニ付スヘキモノナリヤ否ヤニ付キ  
當事國間ニ一致ヲ得サリシトキハ共同委員會ニ依リセヨ定ムヘシト  
ス而シテ總テノ委員又ハ一名ヲ除ク總テノ委員カ仲裁裁判ニ付スヘ  
キモノトセハセヨ仲裁裁判ニ付スヘシトス(合衆國第ニ条此条ハ其後  
合衆國元老院ノ漸除スル所トナリ合衆國ハ批准ヲ得ス)  
第九 仲裁契約

仲裁契約トハ各事件ヲ仲裁裁判ニ付スルニ當リテ必ス結フヘキモノ  
ニシテ紛争ノ目的仲裁裁判官ヲ指定スヘキ期間其他當該事件ノ仲裁  
裁判ニ付スル程々ノ當事國間ノ協定ヲ定ムルモノトス(國際紛争平知  
二第一) 仲裁契約ハ必要ニ應シテ仲裁裁判官選定ノ方法、仲裁法廷ノ有  
スルコトアルヘキ一切ノ特別権能其期延地其使用スヘキ國語及裁判  
廷ニ於テ使用スルコトヲ許スヘキ國語其他當事國間ニ約定セル一切



ノ条件ヲ定ム(全条第二)  
第一〇 仲裁判決ノ效力

義務的仲裁裁判ノ約定ナキ場合ニハ紛争ヲ仲裁裁判ニ付スルト否ト  
ハ干係國ノ自由ニ決スル所ナリトモ既ニ仲裁裁判ニ付スルトキハ  
誠實ニ仲裁裁判ノ服従セサルハカラズ(國際紛争平等的條約) 正当ニ言  
渡ヲ為シ且當事者ノ代理人ニ通告シタル判決ハ確定のニシテ上告ヲ  
許サズ但紛争國力仲裁契約ニ於テ仲裁宣告ノ再審ヲ請求スルノ裁判  
ヲ留保スルトキハ此限ニアラズ(同條約八) 仲裁契約ニ於テ再審ノ請  
求ヲ留保スル場合ニ於テハ及對ノ規約アルニアラザレハ判決ヲ為シ  
タル裁判廷ニ請求ヲ為スコトヲ要ス而シテ此請求ハ判決ニ對シ決定  
的數響ヲ與フヘキ性質(即チ前判決ヲ動カスヘキ性質)ヲ有スル新事實  
ニシテ辯論終結ノ時裁判廷及再審ヲ請求スル當事者方共ニ知ラザリ  
シモノヲ察見シタル場合ニ限リテ之ヲ為スコトヲ得ハシトス(同條約八)  
仲裁判決ハ紛争當事者ニ對シテノミ效力ヲ有ス(同條約八) 否シ紛争當  
事者以外ノ諸國力加ハリタル條約ノ解散ニ干スルモノナルトキハ紛

争當事者ハ適當ノ時期ニ之ヲ各記知國ニ通知スヘシ右諸國ハ各訴訟  
ニ参加スルノ権利ヲ有ス一國又ハ數國力此権能ヲ利用シタルトキハ  
判決中ニ包含スル解散ハ其國ニ對シテモ亦等シク效力ヲ有スルモノ  
トス(同條約九)

第一一 仲裁判決ノ無効

學說上ニ於テ仲裁判決カ如何ナル場合ニ於テ無効ナルヘキヤニ付キ  
枝々ノ議論アリ國際法協會ハ無効ノ場合トシテ仲裁廷ノ权限ノ踰  
越裁判者ノ腐敗及事實上又ハ法律上ノ重大ナル錯誤ヲ擧ケタリ、平  
和會議ニ於テハ仲裁契約ノ無効仲裁契約ノ違反裁判者ノ腐敗又ハ之  
ニ對スル強迫等ノ場合ニ於テハ無効ヲ宣告スル権力ヲ定ムルコト困  
難ナルトノ理由ヲ以テ之ニ于スル規定ヲ定メス又仲裁廷ノ权限  
踰越ノ場合ニ付キテ裁判廷カ自己ノ权限ヲ定ムルヲ得ヘキノ規定ヲ  
置ケリ(三)又錯誤ノ場合ニ付キテハ仲裁裁判又ハ之ニ基キ再審ヲ要求  
スル當事國力共ニ覺知セザリシ新事實ニシテ其性質カ前判決ヲ動入  
ヘキモノヲ察見シタル場合ニ於テノミ再審ヲ許スコトトス然レトモ



紛争國力仲裁契約ニ於テ仲裁判決ノ再審ヲ請未スルノ権利ヲ保留セ  
サルトキハ錯誤ニ關シテモ再審ノ途ヲ認メス而シテ再審ノ請未モ反  
對ノ規約ナケレハ最初宣告ヲ為セル仲裁裁判廷ニ對シテ之ヲ為スヘ  
シトス(八三) 決ノ無効タルヘキカ又ハ明白ニ不当ナル場合ニ付キ  
再審ノ途ヲ確メサルハ却テ仲裁裁判ノ信用ヲ減セシムヘキヲ以テ  
寧ロ一般ノ仲裁判決ニ對シテ仲裁契約ニ再審留保ノ特約ナキモ第ニ  
ノ仲裁裁判廷ニ依ル再審ノ途ヲ闕クテ可トスヘキナリ而シテ未ダ  
斯ノ如キ再審ノ途ヲ存セサル今日ニ於テ仲裁契約ヲ初ヨリ無効ナル  
カ又ハ判決力仲裁法廷ノ权限ノ踰越又ハ仲裁契約ニ於テ協定セル條  
件ノ違反ヲ含ナル場合ニ於テ当事者一一方カ判決ノ當然無効ナルヲ  
主張スルコトヲ認メサルヲ得サルヘク其他仲裁裁判者ノ收購ヲ為シ  
又ハ強制ヲ受ケタル明證アルトキハ判決ニ依リ不当ニ不判ヲ受ケル  
當事國カ判決ノ無効ナルヲ主張スルニ至ルハ止ムヲ得サルナリ、當  
事國ハ仲裁裁判ニ事件ヲ付スルニ當リ裁判者ノ仲裁契約ヲ守リ其  
限以テ於テ判決ヲ為スヲ期待スルハ言ヲ須タサルノミナラス又裁判

者ノ善ク其職責ヲ守リ且自由ヲ保持シテ判決ヲ為スヲ期待シ之ヲ以  
テ仲裁判決ヲ遵守スルノ默示的條件ト為スモノト認ムルヲ得ヘケレ  
ハナリ、又當事國一一方ノ惡意(詐欺)又ハ重大ナル過失ニ依リ判決ニ影  
響スヘキ事實上ノ錯誤ヲ存シタルコト明ナルトキハ對テ當事國ハ判決ノ  
無効ヲ主張スルニ至ルヘキナリ  
一八三一年和蘭國ノ裁判セル英米兩國間ノ北界爭議ノ判決ハ和蘭王  
カ权限ヲ踰越セルノ故ヲ以テ當事國ニ依リ無効ト認メラレタリ又  
限 踰越ノ理由ニ依リボリゲイセハアルヘンケナノ大統領カボリゲイ  
ベルト間ノ北界問題ニ付シテ下セル判決ニ服從セス一九一〇年十月  
北米合衆國及メキシコエラ間ノオリノコ河汽船会社ニ付スル紛議ヲ  
判決セル海牙ノ永久仲裁裁判廷ノ判決ハ或點ニ付シテ前ノ仲裁判決  
者ノ下セル仲裁判決ヲ無効トセリ

第一二 仲裁裁判者

仲裁裁判者ハ一國家一國ノ君主大統領裁判所立法會議々一コトヲ得  
ヘク又大學學會等ノ團體タルヲ得ヘク又一人又ハ數人ノ私人タルヲ



得ヘシ海牙ノ常設仲裁裁判所設立以前ニ於テハ普通他國ノ元首ニ仲  
 裁裁判ヲ託スルカ又ハ紛争國ヨリ互ニ同裁ノ裁判者ヲ選ミ而シテ更  
 ニ裁判者又ハ紛争國政府又ハ第三國力選ムヘキ第三國人ヲ之ヲ加ヘ  
 テ仲裁裁判廷ヲ組織セリ仲裁者判廷ハ奇數ノ裁判者ヨリ成ルヲ常ト  
 ス(就中五人ノ場合多シ其中一人裁判長トナル)國家又ハ國家ノ元首  
 ヲ仲裁者ト為セルトキハ國家又ハ元首ハ別ニ報告者ヲ選ミテ事件ノ  
 審理ヲ為サシメ而シテ國家又ハ國家ノ元首ノ名ヲ以テ判決ノ宣書ヲ  
 為ス海牙ノ第二回平和會議ノ議定セル國際紛争平和的處理條約ハ仲  
 裁者判ノ職務ハ之ヲ當事者力隨意ニ指定シ又ハ該條約ニ依リテ設置  
 シタル海牙ノ常設仲裁者判所ノ裁判者中ヨリ選定シタル一人又ハ數  
 人ノ仲裁者判官ニ委託スルコトヲ得ルトシ(五五項)而シテ海牙ノ常設  
 仲裁者判所ニ訴ヘント欲スル場合ニ於テ紛争國相互間ニ仲裁者判廷  
 ノ構成ニ付キ合意ナキトキハ國際紛争平和的處理條約中ニ定メタル  
 所(四五項三項)ニ依リテ構成スル條約ハ條約記名國力其相互ノ間ニ生  
 シタル紛争ヲ處理センカ為ニ常設仲裁者判所ニ付スヘント欲スルト

キハ其紛争ヲ裁定スヘキ當該仲裁者判廷ヲ組織スル仲裁者判者ノ選  
 定ハ常設仲裁者判所裁判者ノ名簿ニ就テ之ヲ為スヲ要ストス(四五項)  
 所謂紛争簿ハ各記名國力國際法上ノ問題ニ堪能ク名アリテ德望高ク  
 且仲裁者判者ノ任務ヲ受諾スルノ志アル者四名以下ヲ指定シ之ヲ常  
 設仲裁者判所裁判者トシテ記入セルモノナリ(四)海牙ノ常設仲裁者判  
 所ハ名ハ常設仲裁者判所トスルモ其法廷カ常ニ副廷シテ裁判ヲ  
 行フモノニアラス常設仲裁者判所ナル組織就中其所屬裁判者ノ名  
 簿及其事務局カ常設ナルモノナリ各紛争問題ニ付テ該裁判所所屬裁  
 判者ノ總名簿ヨリ當事者力直接又ハ間接ニ裁判者ノ選定ヲ為シテ當  
 該事件ノ仲裁者判廷(國際紛争平和的處理條約ニ仲裁者判部ト設セル  
 モ)ニシテ原諾ハ *tribunal* ナリヲ組織スルナリ  
 第十三 仲裁司法裁判所  
 第二回平和會議ニ於テ所謂仲裁司法裁判所ナルモノヲ設ケ世界各株  
 ノ法制ヲ代表スル判事ヨリ成リ且仲裁者判ノ組織シテ行ハルルコト  
 ヲ確保スルニ足ルヘキ起訴ヲ自由ニシテ且容易ナル仲裁者判所法廷



ト為サントセリ。何時ニテモ開廷シ得ヘク起訴ニ莫大ノ費用ヲ要セ  
サレシノ法律的ノ決定ヲ為ス法廷ヲラシントス然ルニ判事ノ任命  
ノ方法ニ付キテ一致ヲ得スシテ仲裁司法裁判所設立ニ関スル条約案  
ハ第一回平和會議ノ表彰セル第一希望ノ附屬トシテ公ニセラルルニ  
過キサルニ至レリ合衆國ハ一九〇九年十月十八日ノ同文通牒ニ依リ  
國際捕獲密檢所ニ仲裁司法裁判所ノ職分ヲ行ハシムルノ提案ヲ為セ  
リ

第十四 仲裁裁判手續

仲裁々判ノ當事國ハ先ツ事件毎ニ仲裁契約ヲ結ヒテ其紛争ノ目的仲  
裁々判官ヲ指定スヘキ期間該ニ関スル口頭辯論又ハ書類ノ提出ノ  
取式順序及期間並ニ仲裁々判所ノ費用ノ豫納金トシテ寄託スヘキ金  
額ヲ定ム(五二系)仲裁契約ハ場合ニ依リ仲裁々判官指定ノ方法裁判所  
ノ有スルコトアルヘキ一切ノ特別技能其地其使用スヘキ國語及  
裁判廷ニ於テ使用スルコトヲ許スヘキ國語其他當事者間ニ約定セル  
一切ノ条件ヲ定ム(五三系)

常設仲裁々判所ニ訴ヘタル場合ニ於テ紛争國カ一致シテ講求シタル  
トキ又ハ一定ノ場合ニ紛争國カ外交上ノ手續ニ依リ協定ヲ遂ゲ得サ  
リシトキニ於テ常設仲裁々判所カ仲裁契約ヲ定ムルコトアルヘキモ  
ノトス(五三系)

仲裁契約ニ依リテ裁判者ノ权限定マルモノトス仲裁契約ニ準クル争  
點以外ニ亘リテ裁判者ハ判決ヲ為スヲ得ス但仲裁々判者ハ及第的勸  
解ノ权限ヲ與ヘラルルコトアリ此場合ニハ法規上明確ナル判決ヲ為  
シ得ナルトキハ雙方ノ主張ヲ折衷スル和解的解決ヲ與フルコトヲ得  
ヘキナリ

仲裁々判ノ手續ニ付キ當事者カ判段ノ規則ヲ協定セカリシ場合ニ付  
キ第一回平和會議ハ仲裁々判ノ榮耀ヲ助ケルノ目的ヲ以テ記名國カ  
仲裁々判手續ニ適用スヘキ規則ヲ定メタリ(國際紛争平和的處理條約第一  
三節其六三乃至八五)  
但君主又ハ其他ノ國ノ元首ニシテ仲裁者ニ送定セラレタルトキハ仲  
裁々判手續ハ仲裁者之ヲ定ム

國際紛争平和的處理條約ノ是ナル所ノ裁判手續ハ大体ニ於テ書面ノ



提出及辯論ノニニ列ル辯論ハ當事者ノ承諾ヲ經テ為シタル裁判是ノ  
決定ニ依ルノ外セテ公用セズ(六項)一切ノ決定ハ裁判官ノ多數決ニ  
依ル(七項)裁判ハ公開ニ行フ(八項)正式ニ言渡テ為シ且當  
事者ノ代理人ニ通告シタル判決ハ確定ノニ終審トシテ紛争ヲ決定ス  
(九項)判決ノ解決及執行ニ関シ當事者間ニ起ルコトアルハキ一切ノ紛争  
ハ及對ノ規約アルニアラサレハ該判決ヲ言渡シタル裁判官ノ裁判ニ  
付スヘキモノトス(十項)但當事國カ仲裁契約ニ於テ再審ヲ請求シ得ヘキ  
コトヲ定ムルヲ得此場合ニ控訴ヲ為スヘキ法廷ニ付テ是ハル所ナケ  
レハ原ノ法廷ニ訴フキモノトス而シテ再審ノ請求ハ判決ニ對シ決定  
的影響ヲ與フヘキ性質ヲ有スル新事實ニシテ辯論終結ノ時裁判廷及  
再審ヲ請求スル當事者カ其ニ知ラザリシモノヲ發見シタル場合ニ限  
リ之ヲ為スコトヲ得(十一項)

仲裁裁判ノ準則タルモノハ國際法ノ原則タルコトアリ條約ノ規定タ  
ルコトアリ、又特ニ當事國間ニ協定シタル特別ノ原則タルコトアリ  
(例ハアラバ三ノ号事件ニ關スルワシントンノ三則)又當事國ノ一ノ國內

法スハ當事國ノ送ム回次法ノ規定タルコトアリ又所謂衡平ノ原則タ  
ルコトアリ又仲裁裁判條約カ及誼的勸解ノ方法ニ依リ法規上ノ原則  
ニ依ラズシテ雙方ノ主張ヲ和解スヘキヲ定ムルコトアリ得ヘキナリ  
國際紛争平和的處理條約ハ仲裁裁判簡易手續ナルモノヲ定メ簡易ナ  
ル手續ニ適スヘキ性質ノ紛争ニ関シ仲裁司法ノ運用ヲ容易ナラシム  
ル為メ別條ノ規約ナキ場合ニ適用スヘキ規定ヲ設ク(第四節)簡易手續  
ニ依レハ紛争當事者ハ各一人ノ仲裁裁判者ヲ指定ス右兩人ノ仲裁判  
判者ハ一人ノ上級仲裁裁判者ヲ送定ス若シ此送定ニ関シ合意成立セ  
サルトハ八仲裁裁判者ハ當該裁判所所屬裁判者ノ姓名簿ニ就キ各當  
事者ノ指定シタル以外ノ者ニシテ且當事國ノ孰レノ國ノ臣民ニ屬  
セサル者ノ中ヨリ各二人ノ候補者ヲ出シ抽籤ヲ以テ該候補者中ヨリ  
上級裁判者ヲ定ム上級仲裁裁判者ハ裁判長ト為リ裁判廷ノ決定ハ多  
數決ニ依ル(十二項)裁判手續ハ各ク書面ニ依ルモノトス(十三項)條約規定  
ノ一般仲裁裁判手續ニ于スル規定(第十四項)ハ特ニ簡易手續ニ于シテ定メ  
タル規定(第十五項)ニ他無セサル限ハ適用セラレヘキモノトス(十六項)



第二十三章 國際紛争強制的處理方法

第一 概説

國際紛争ノ強制的處理方法ハ一ノ國家カ國際紛争ヲ自己ノ主張ノ如ク詳説スルコトヲ他ノ國家ヲシテ承認セシムル爲ノ行フ所ノ強制的方法トリトス戰争ハ閉シテハ後ニ戰時國際法ヲ述フルニ當リテ遂ヘヤリ以テ茲ニ述ヘス今ハ平時狀態ニ於ケル強制的處理方法タル報復抗船舶抑留及平時封鎖ノ四ニ付テ論スヘシ是等ノ強制的方法行ハルルニ致シテ戰争ハ當然開始サルニアラズシテ平時關係カ依然継続スルト思惟サル然レトモ報復以外ノ復抗船舶抑留及平時封鎖ノ如キ行爲ハ他方カ之ヲ戰争ノ原因ト認ムルヲ得ヘキハ勿論強カラ用フル復抗及平時封鎖ハ此種ノ行爲タルヲ明ニセズシテ行ハハ他方ハ之ヲ戰争行爲ト認ムルヲ得ヘキモノナリ平時ニ於ケル國際紛争強制的處理方法ハ戰争狀態ニ於ケル如ク國際法カ持ニ棄シタル以外ノ如

何ナル種類ノ暴行ヲモ行ヒ得ヘキト異リテ強力的手段ニ制限アリト又且戰争狀態一度開カルルトキハ他方カ戰争ノ原因ニ閉シテ一方ノ主張ヲ容ルルノ意見ヲ發表スルモ直ニ戰争狀態ヲ終止スルヲ要セザルモ平時ニ於ケル上述ノ諸種ノ強制的處理方法ハ他方カ強力的手段ヲ加フル因ノ主張ヲ容ルルノ意思ヲ發表スルトキハセヨ止メサルヲ得ス

國際紛争強制的處理方法中ニ外交關係ノ斷絶陸海軍ノ示威最後通牒等ヲ加フルモノアルモ是等ハ強制ヲ加フヘキコトヲ直接的又ハ間接的ニ告テ又ハ示スモノト云フヲ得ヘキモ其レ自身強カヲ加フルモノニアラザルヲ以テ國際紛争強制的處理方法中ニ數フヘカラス

第一 報復

報復トハ他國ノ國際禮讓ニ及シスハ公平ヲ失ヘル等ノ不當ノ行爲ニ對シテ公一又ハ企業ノ行爲ヲ以テ之ニ報ヒテ上述ノ如キ行爲ヲ止メシメントスルモノナリ報復ノ原因タル他方ノ行爲ハ國際法ニ違反スル不道ノ行爲ニアラス又報復ノ行爲自身モ他方ノ國家ノ國際法上ノ



権利ヲ侵スモノニアラズ例ハ他國カ自國人又ハ自國船舶ニ對シテ符  
 ニ不利益ヲ被ラシメ又ハ他國カ自國ヨリ出入輸入品ニ對シテ特ニ重  
 稅ヲ課スル等ノ場合ニ於テ自國モ亦一又ハ全權ナル手段ニ出テテ加  
 害國ヲシテ不當ノ行為ヲ止メシメントスル如キ是ナリ  
 報復ノ行為ハ之カ原因タル他方ノ不當ノ行為ト同一又ハ全權ナルモ  
 ノニシテ其加害ノ程度カ原因タル不當ノ行為ノ加害ノ程度ニ相當シ且  
 原因タル不當ノ行為ヲ止メシムルニ必要ナル程度ヲ起スルヲ要ス、  
 次シテ不法ノ行為ヲ用フルヲ得ス、而シテ原因タル不當ノ行為ヲ止メ  
 ハ報復ノ行為ヲ止メサルハカラズ又ハ報復ニ付テ法律的報復即チ  
 立憲的行為ニ依ル報復ト事實的報復即チ行政的行為ニ依ル報復ト  
 ヲ區別スル學者アリ

報復ニ付テ注意スヘキ點下ノ如シ(一)報復ノ原因ハ不當ノ行為ニシテ  
 不法ノ行為ニアラズ(二)報復自身モ他國ノ權利ヲ侵害スルモノニアラ  
 ス(三)報復ニ依ル加害ノ程度ハ其原因タル行為ノ加害ノ程度ニ相當ス  
 ヘクセヨ止メシムルニ必要ナル程度ヲ起スルコトヲ得ス(四)報復ヲ行

フ者ハ國家ナラサルヘカラス(五)報復ノ行為ハ之ヲ行フ國家ノ權利ノ  
 行為ニシテ普通其領域内ニ於テ行ハル

第三 復仇

復仇トハ他國家カ自國ニ對スル國際法上ノ義務ヲ履行セズ又ハ自國  
 ノ國際法上ノ權利ヲ侵害シタル場合ニ於テ斯ノ如キ國際法上ノ不法  
 行為ヲ止メシメ又ハ斯ノ如キ不法行為ニ對スル救正ヲ為シシムル為  
 ヲ行フ所ノ行為ニシテ復仇ナル國際法上ノ特別ノ制度認ノラレスト  
 決定セハ國際法上ノ不法ノ行為タルヘキモノナリ  
 復仇ノ原因トナルヘキ國際法上ノ不法行為ハ外國ノ臣民ニ對スル權  
 利ノ拒絕其他ノ不法ナル外國臣民虐待ノ場合ニ限ラズシテ如何ナル  
 種類ノ不法行為ニテモ被害國カ談判ニ依リ救正ヲ得サル不法行為ナ  
 レハ復仇ノ原因ト為スヲ得ヘキナリ例ハ一國カ條約上ノ義務ヲ履行  
 セズ又ハ外國ノ主權ヲ行フノ權利ヲ侵害スル行為ヲ行ヒ又ハ外國ノ  
 威震ヲ侵害スル為行ヲ行ヘル場合等ニ於テモ對テ國ハ之ニ對シテ復  
 仇ヲ行ヒ得ヘキナリ



一八四〇年英國ハ条約違反ノ故ヲ以テツリシシリウス王国ニ對シテ復仇ヲ行ヘリ一八一六年ノ通商条約ニ依リ英國ハツリシシリウスニ於テ一定ノ通商上ノ利益ヲ有セシニ一八三八年ネーデルラント政府ハ条約ニ違反シテ佛國人及他ノ外國人ノ組織スル一會社ニ硫黃專賣ノ特許ヲ與ヘ英國カ其條約ノ侵害ニ對シテ抗議ヲ為シ專賣權ノ廢止ヲ要求セルモネーデルラント政府カ之ヲ聽カザリシヨリ英國ハ復仇ノ舉ニ出テマルタ島ノ港ニ在ルツリシシリウスノ船舶ニ對シテ船舶留置ヲ行ヒ抑シテ地中海ノ艦隊ヲシテツリシシリウスニ屬スル船舶ヲ拿捕セシノ若干ノ船舶ヲ拿捕セリ佛國ノ調停ニ依リツリシシリウスカ硫黃專賣ノ特許ヲ廢止スルヲ承諾スルニ及ヒ船舶ヲツリシシリウスニ返還セリ

復仇ハ國際法上ノ不法行為ヲ原因トシテ對手國ノ政府ノ國際法上ノ責任ヲ存スル場合ニ限リ行フヲ得ヘキ所ニシテ對手國ノ政府ノ國際法上ノ責任ヲ存セザル場合ニ復仇ヲ行フコトヲ得ス

昔時ニ於テハ私人モ亦復仇ノ行為ヲ行ヘリ中古ニ於テハ勿論近古ニ

入リテモ十八世紀ノ終ノ頃ニ至ル迄一因ハ其臣民ノ国外ニ於テ外國又ハ外國臣民ニ害ヲ被ムリテ救正ヲ得ザリシトキハ捕獲免許狀ヲ與ヘ加害ヲ為セル國家其國ノ臣民及是等ノ者ノ財産ニ對スル自助的行為ニ依リ損害ノ賠償ヲ得セシメタリ後國家自身カ復仇ノ行為ヲ行フニ至リ私人ノ行フ復仇ノ行為ハ漸ク衰ヘ十八世紀ノ末ニハ其跡ヲ絶ツニ至レリ復仇行為ハ今日ニ於テハ軍隊軍艦行政官吏等ノ國家機關ニ依リテノミ行ヒ得

復仇ノ行為ハ原則トシテ其原因タル不法行為ヲ行ヘル國家又ハ其臣民ニイタル如何ナル事項ニ付キテモセヨ行フヲ得加害國ノ国旗ヲ掲クル船舶ヲ拿捕シセト結ヘル條約ノ履行ヲ停止シ加害國ノ領土ノ一部ノ軍事的占領ヲ為シ又ハ其税関ヲ押收シ加害國又ハ其臣民ニ屬スル貨物ヲ押收シ加害國ノ官吏又ハ其臣民ヲ逮捕留置スル等ノ事ヲ為シ得但加害國ノ官吏又ハ其臣民ヲ留置スルモ之ヲ罪人ノ如ク取扱フヲ得又如何ナル狀態又ハ事情ノ下ニ於テモ復仇ノ為ニ是等ノ者ヲ処刑スルヲ得ス一八七二年六月被逸軍艦ノ艦長ハハイチニ對スル故



遠臣民ノ損害賠償ノ為メ復仇トシテハハイチ共和国ノ「コレベツ」止  
 軍艦ニ雙ヲ差押ヘタリ救逸臣民ノ損害賠償トシテ要求セル三ノ磅ノ  
 金額ヲ受取ルセ直ニ軍艦ヲ解放シ救逸国旗ニ対スル禮砲及其答砲ヲ  
 以テ此事件ヲ終了セリ一八九五年英國ハニカラゴニ対シテ復仇トシ  
 テコリントニ兵ヲ上陸セシメ税関及他ノ政府一編スル建造物ヲ占領  
 セシメタリ一八九〇一年佛國ハ土耳其ニ対スル復仇トシテミナタリ  
 島ノ占領ヲ其艦隊ニ命ジタリ一八九〇八年和蘭ハジエラニ対シテ  
 復仇トシテ「ネズエラ」ノ公船ニ雙ヲ押收スルヲ其艦隊ニ命ジタリ  
 又一七四〇年露國女帝アンカ正當ノ理由ナクシテ普國ニ敏化セル露  
 國人スリケルベルグ男ヲ逮捕セルヨリ普國ノ「フレデリック」五ハ復仇トシ  
 テ二人ノ露國人ヲ捕ハスルケルベルグノ救放セラルル迄セテ抑留セ  
 リ

復仇ハ加害國又ハ其國ノ臣民ニ関スル如何ナル事項ニ付テモ之ヲ行  
 フヲ得ルヲ原則トスルモ此原則ニ対シテ例外ヲ存ス外國ニ在リテ治  
 外法權ヲ享有スル國家ノ元首又ハ外大使節ニ対シテ復仇ノ行爲ヲ向

クルハ不法ナリ又國家ノ公債ヲ復仇ノ手段ノ目的物ト爲シ得ヘキヤ  
 否ヤニ付テハ議論アリ一七五二年普國ノ「フレデリック」ニ世カ普國ノ臣  
 民ニ対スル英國ノ憲檢所ノ檢定ヲ以テ不法ト爲シ之ニ報ユル復仇ノ  
 爲メ英國ノ債權者ニ対スル公債ノ支拂ヲ拒メルヤ英國政府ノ復仇ノ  
 原因存セサルヲ説ケルノミナラズ公債ハ復仇ノ目的物ナリ得サルヲ  
 主張セリ此説ハ英國ノ學者ノ贊成スル所ナルモ独逸ノ學者ノ及対ス  
 ル所ナリ

復仇ニハ積極的復仇ト消極的復仇トヲ存シ得ルナリ積極的復仇ハ普  
 通ノ事情ニ於テハ國際法上ノ不法行為タルヘキ行爲ヲ行フ場合ニ存  
 ス例ハ他國ノ土地ヲ占領シ又ハ他國艦ヲ押收スルカ如キ是ナリ消極  
 的復仇ハ普通ノ事情ニ於テハ行フノ義務アルヘキ行為ヲ行ハサル場  
 合ニ存ス例ハ條約義務履行ノ拒絕又ハ負債支拂ノ拒絕ノ如キ是ナリ  
 復仇ハ其積極的ナルト消極的ナルトト問ハス之カ原因タル加害ト相  
 當シ且改正ヲ得ルニ必要ナル程度ニ限ルヘキナリ僅ニ一人ノ臣民ニ  
 対シテ裁判ヲ拒メルニ報ユル爲メ該外國ノ數百人ノ臣民ヲ復仇トシ



テ抑留スルハ不法ナリ平時利銀カ復仇ノ手段トシテ行ハルルコトヲ  
ルハ後ニ述フル所ノ如シ  
復仇ノ一手段トシテ船舶抑留ナルモノアリ是レ自國港津及ノ外國船  
指テ抑留スルヲ謂フモノナリ復仇手段タル外船舶抑留ハ又(一)昔時捕  
戰ノ際將ニ敵國トナラントスル國家ニ屬スル商船ヲ抑留シ之ヲ捕獲  
物トスル為ノ行ハレタルコトアリ(今日ハ行ハレヌ)又政治上又ハ軍  
事上ノ機密ノ漏泄ヲ防ク為ノ外國船ヲ抑留スル為ノ行ハルルコトアリ  
所謂アレノテユアラシ即チ是ナリ(三)昔時軍隊兵器等ノ必要ナル  
運送ヲ行ハシムル所謂非常救用権ノ作用トシテ行ハレタルコトアリ  
非常救用権ハ今日ニ於テハ交戰國ノ必要トスル場合ニ中立財産ノ所  
有者ニ賠償ヲ為スル条件トシテ交戰國内ニ在ル中立財産ヲ抑收使用  
破壊スルノ権利トシテ解セラル  
復仇ハ報復以外ノ他ノ國際紛争強制的処理方法ト全シク不法ヲ行ハ  
ル國家ニ對シテ救正ヲ求ムル談判行ハレ談判其功ヲ奏セサリシ時始  
メテ行ヒ得ヘキ所ナリ

復仇ハ不法ヲ行ヘル國家カ必要ナル救正ヲ為セルトキハ直ニ終止セ  
サルヘカラス復仇ノ手段トシテ個人ヲ抑留セルトキハ又テ解放シ船  
船ヲ抑留セルトキハ之ヲ返戻シ土地ヲ占領セルトキハ之ヲ撤退シ条  
約ノ履行ヲ停止セルトキハ再ヒ之ヲ實施スル等ノコトヲ為ササルヘ  
カラス  
第一平和會議ニ於テ議決セル債務回收ノ為ニスル兵力使用ノ制限ニ  
關スル條約ニ依リ一國ノ政府ニ對シ他ノ一國ノ政府カ其國民ニ支拂  
ハルヘキモノトシテ講求スル契約上ノ債務ヲ回收セントスル場合ニ  
於テ兵力ノ使用ヲ念ム復仇ヲ為スハ債務國カ仲裁々判ニ付スルコト  
ヲ拒ミ又ハ仲裁契約ノ作成ヲ不能ナラシム又ハ仲裁々判ノ判決ニ從  
ハサル場合ニ限ルコトナレリ  
復仇ヲ認ムルヲ非難スル學者アルモ國際上係ニ於テ尙未義務的仲裁  
裁判ノ制度一般ニ行ハレヌ國家ノ上ニ立テ救正ヲ與フル裁判ノ組織  
尙未設ケタルヲ以テ國際紛争ニ際シテ強制的手段ヲ用フルハ必要アリ  
而シテ戰爭ノ影響ハ交戰國及中立國ニ取リテ重大ナルヲ以テ戰



事狀態ヲ惹起セサル復仇ノ手段ニ依リ改正ノ目的ヲ達シ得ルトキニ  
 強テ戰爭ヲ開カサルヲ得サラムルノ必要ナキヲ以テ國際法ハ復仇  
 ヲ認メテ可ナリトス唯復仇ハ實際ニ於テ大多數ノ場合ニハ強國カ弱  
 國ニ對スル手段トナルハ止ムヲ得サルナリ  
 復仇ニ付テ注意スヘキハ先ノ如シ(一)復仇ノ原因ハ國際法上ノ違法行  
 為ナリ(二)復仇ノ行為自身モ普通ノ事情ノ下ニ行ヘハ國際法上ノ違法  
 行為タルヘキモノナリ(三)復仇ノ程度ハ原因タル加害ノ程度ニ相當ス  
 ヘリ又改正ヲ得ルニ必要ナル強制ノ程度ヲ超エサルヲ要ス(七)復仇ヲ  
 行フ者ハ國家トラサルヘカラス(八)復仇ノ行為ハ報復ト異リテ之ヲ行  
 國家ノ私利ノ行為ナルヲ要セサルヲ以テ對テ手國ノ領土領水内及ハ公  
 海ニ於テ之ヲ行フコトアリ

第四 平時封鎖

平時封鎖ハ一八二七年英佛露三國カ希臘ノ独立ノ為メ土耳其兵ノ占  
 領セル希臘ノ海岸ヲ封鎖セルヲ初メノ例トシテ國際慣行ニ於テ行ハ  
 ルルニ至レル所ナリ

平時封鎖ハセリ大別スルトキハ復仇ノ手段トシテ行フ場合トテ殊ノ  
 手段トシテ行フ場合トノ二種アリ又一國ニ背叛セル地方ヲ該國又ハ  
 該國ニ協力スル他國カ鎮壓スル為メ行フコトアリ

平時封鎖ニシテ復仇ノ手段トシテ行ハレタル事例ヲ舉ケレハ佛國カ  
 一八三一年ニ於テ佛國臣民ノ受ケタル損害ノ改正ヲ葡萄牙ヨリ得ル  
 為メタガス河ヲ封鎖シ一八三八年佛國カメキシコニ對スル復仇ノ行  
 為トシテメキシコノ港ヲ封鎖シ此際メキシコハ平時封鎖ニ應ジ佛國  
 ニ對シテ宣戰セリ(五年佛國ハ復仇トシテアルヘンナノ港津ヲ封鎖  
 シ一八四五年佛國カ英國ト天ニ再ヒアルヘンナノ港津ヲ封鎖シ英  
 國カ一八五〇年ノドンパシフコ事件ニ對スル復仇トシテ希臘ノ港津  
 ヲ封鎖シ希臘船舶ノミニ河ス英國カ一八六二年難破セル英國商船ノ  
 掠奪ニ對ル復仇トシテブラジルノリオデジャネイロヲ封鎖シ佛國カ一  
 八八四年支那ノ紛争ノ際合湾ヲ封鎖シ一八九〇年暹羅トノ紛争ノ際  
 ヲ封鎖シ一八九二年英佛露三國カ復仇トシテウヰネズエラノ  
 海岸ヲ封鎖シタル如キ是ナリ



封鎖カ干渉ノ手段トシテ行ハレタル例ハ一八二七年ノ希臘獨立ノ爲  
 ニスル英佛露ノ希臘ノ海岸ノ封鎖ヲ初メトシ英佛露國カ一八三〇年  
 和蘭ヲシテ白耳義ノ故立ヲ承認セシムル爲メ和蘭ノ海岸ヲ封鎖シサ  
 一八一二年カ一八六〇年一揆ヲ助クル爲メシリノソツテ及ガニタノ  
 港ニ封鎖ヲ行ヒ此封鎖ハ一八六一一年戰時封鎖ニ変シタリ英佛露伊  
 德カ一八八六年希臘ノ土耳右ニ封シテ戰事ヲ行フヲ禁スル爲メ希臘  
 沿岸ニ封鎖ヲ行ヒタルカ如キ是ナリ又諸強國カ一八九七年クリート  
 島ニ封鎖ヲ行ヘル如キハ強國カ土耳右ニ協カシテ叛乱地方ニ封シテ  
 行ヘル所ナリ

國際法上平時封鎖ヲ認ムヘシトスル論者ト認ムヘカラストスル論者  
 トアリ一八八七年國際法協會ハ平時封鎖ヲ認ムルノ決議ヲ爲セリ平  
 時封鎖カ國際慣例ニ依リ認メラレタルハ之ヲ否認シ得ス  
 平時封鎖ヲ認ムル論者トモ多クハ第三國ノ船舶ヲ拿捕押収スルヲ  
 得サルヲ認ム學者或ハ第三國船モ平時封鎖ヲ尊重セサルヘカラスト  
 爲シ封鎖國ハ封鎖候破ヲ試ムル第三國船ヲ停止セシムルノ権利アル

ヲ主張ス然レトモ多數ノ學者ハ封鎖國ニ斯ノ如キ権利ノ存スルヲ認  
 ノス蓋平時封鎖ニ於テハ交戰國ノ中立國ニ對スル權利義務ヲ生セサ  
 ルヲ以テ國際慣例ノ明確ニ例外ヲ認ムルニ至ルニアラサル以上ハ平  
 時封鎖ハ紛爭國間ノ事項ニシテ其效果ヲ第三國船ニ及ホササルヘク  
 封鎖艦隊ハ第三國船ヲ拿捕押収スルヲ得サルノミナラス單ニ之ヲ停  
 止スルコトモ得サルモノト爲ササルヘカラスト但平時封鎖ノ制度ノ存  
 スルヲ認ムル以上ハ第三國船ナルヤ被封鎖國船ナルヤヲ確ムル爲メ  
 第三國船ニ對シテモ臨檢ヲ爲スノ権利ヲ認メサルヘカラスト一八八七  
 年九月七日ノハイデルベルグノ國際法協會ノ決議ニ於テモ平時封鎖  
 ニ於テ外國旗ノ船舶ハ封鎖ニ拘ラス自由ニ出入シ得ルト爲ス

第三國船ニ對シテ平時封鎖ノ慣例ハ變更アリ一八五〇年以前第三國  
 船モ平時封鎖ヲ尊重スヘキモノトセラレ封鎖候破ヲ行ハントスル第  
 三國船ハ拿捕サレタルモ封鎖終了ノ際還付サレタリ但損害賠償ヲ失  
 ヘス英國カ一八五〇年ニ於テ又英佛露伊德カ一八八六年ニ於テ希臘  
 ノ港津ヲ封鎖スルヤ希臘船ニ對シテノミ是等ノ港津ヲ鎖シ他國船ハ



米入ヲ許サレタリ一八九七年ノクリートノ封鎖ノ場合ニ於テモ然リ  
 トス 然ルニ佛國カ一八九四年台灣ヲ封鎖スルニ當リ第三國船ニ對  
 シテモ封鎖ヲ發行セントセリ英國ハ之ニ對シ平時封鎖ハ第三國船ニ  
 其效ガヲ及不ササルヲ主張シ佛國ハ止ムヲ得入平時封鎖ト為サスシ  
 テ清國ト戰爭狀態ニ在ルヲ認ムルニ至レリ一九〇二年英秋伊ノ三國  
 カヴネズエラニ封鎖ヲ行フヤ第三國船ニ對シテ之ヲ發行セント欲セ  
 ルヲ以テ他ノ點ニ於テ平時封鎖ノ性質ヲ有セルニ拘ラス戰時封鎖ト  
 為スニ至レリ

平時封鎖ヲ受クル國ノ船舶カ封鎖ヲ破ラントセハ之ヲ拿捕押收シ得  
 ヘキコト認メラル然レトモ平時封鎖止ムトキハ之ヲ返戻セサルヘカ  
 ラサルコト認メラルルヲ以テ之ヲ処罰シ沒收スルヲ得入一九〇二年  
 カヴネズエラニ對シテ封鎖ヲ約定セルニ因ハ戰時封鎖タルノ宣言ヲ為  
 セルモ封鎖ノ解除ノ後拿捕セルカヴネズエラ公船ノ船舶ヲ返戻セリ因  
 際法協會ノ決議(一八八七年九月七日)ニ曰ク被封鎖國ノ船舶ニシテ封  
 鎖ヲ破ルトキ公拘留セラルヘシ然レトモ封鎖ヲ終リタルトキ是等船

船ハ其搭載品ト共ニ所有者ニ返付セラルヘシ但其拿捕ノ為ノ何等ノ  
 権利侵害ニ對スル賠償ヲモ為スコトナシトス  
 平時封鎖ハ爭議ヲ談判ニ依リ解決スル能ハサルニ至リテ始メテ行フ  
 ヲ得ヘキナリ

封鎖ノ行為ハ敵對的性質ヲ有スト推定スヘキヲ以テ其平時封鎖ナル  
 コトヲ明ニシ其效力ノ正域及日時ヲ明ニスル為メ對守國ニ告知ヲ發  
 セサルヘカラス又平時封鎖ハ有效ノ條件ヲ備ヘサルヘカラス即チ船  
 舶ノ出入ヲ實際危險ナラシムル災カラ備ヘサルヘカラス一八八七年  
 ノ國際法協會ノ決議ニ曰ク「平時封鎖ハ正式ニ其宣言及告知ヲ為スヘ  
 ク且充分ナル兵力ヲ以テ之ヲ維持セサルヘカラスト」  
 平時封鎖ハ普通強國カ弱國ニ對シテ行フモノナルモ諸國カ連合シテ  
 一強國ニ對シテ行フコトヲ想像シ得サルニアラス平時封鎖ハ復仇ノ  
 手段トシテモ干涉ノ手段トシテモ今日ノ國際法上之ヲ認メサルヲ得  
 ス戰爭ヲ惹起スヘキ場合ニ平時封鎖ニ依リ戰爭ヲ惹起カスシテ止ム  
 コトアリ得ヘキナリ



平時國際公法(完結)



大正十三年十一月一日印刷  
大正十三年十一月五日發行

發行者

東京市本郷區本郷四丁目四十三番地  
山 中 志 津 子

印刷所

國 文 社



14  
707



終

